

# 競技上の注意

審判長 藤井 進

## 1. ボール及びボールの選択について

- (1) ボールは、(公財)日本卓球協会公認の白色スリースター・40mm プラスチック球を使用する。  
メーカーは日本卓球(プレミアムグリーン)、VICTAS(VP40+)、タマス(R40+)を使用する。
- (2) 試合ボールは、審判員が持参したボールケースの中から審判員が無作為に選ぶ。

## 2. ラバー、ラケットについて

- (1) ラバーは、ラケット本体より大きかったり、小さかったりしないこと。
- (2) 外国製ラケットで、JTAAのマークのないものを使用する場合には、あらかじめ試合前に審判長の許可を受け、試合の際は発行された許可証を携行すること。
- (3) ラバーには、(公財)日本卓球協会が公認したことを示す JTAA または、ITTF公認のロゴがなければならない。
- (4) ラバーの後加工など、ルールに反する行為は厳に慎むこと。また、表面が均一でないラケット、ラバーの厚さが規定を超えるラケットは使用してはならない。

## 3. 接着剤の使用について

- (1) ラバーの接着剤は、(公財)日本卓球協会が公認した接着剤あるいはPSAシートを使用しなくてはならない。
- (2) 接着剤を使用する場合は審判長に申し出て、指示された場所で行うこと。

## 4. 服装について

- (1) 競技服装は、(公財)日本卓球協会公認(赤ワッペン)のものであれば、どのような色でもよい。黒ワッペン、白ワッペンのうち主たる色が白のものは着用できない。ベンチ内では、監督・アドバイザー・選手は白いトレーニングウェアやシャツなどの着用を避けること。
- (2) 同一チームの選手は、靴及び靴下を除いて同一の服装で競技しなければならない。
- (3) 相対戦する選手は、互いに区別できる程度に異なった服装で競技しなければならない。
- (4) ゼッケンは、2023年度の(公財)日本卓球協会指定のものを着用すること。

## 5. 競技の継続とマナーについて

- (1) 競技者・監督は、相手に対して不当な影響を与え、観客に不快感を与え、または、そのゲームの評判を落とすような癖や態度を慎まなければならない。
- (2) 競技者・監督のバッドマナーに対しては、競技ルールに従って、ペナルティの対象となる。
- (3) みだりに競技の遅延行為をしないこと。

## 6. 審判について

- (1) 予選リーグについて、主審・副審ともに地元審判員が行う。
- (2) 決勝リーグについて、主審・副審ともに地元審判員が行う。

## 7. その他

- (1) 12月23日(土)の第1試合のオーダー提出は男子13:00、女子13:20、12月24日(日)・25日(月)はともに第1試合のオーダー提出は8:20とする。あらかじめオーダー用紙に出場順を記入して、3枚複写全てを提出する。以後は試合予定の30分前を原則とするが、その時間に自校または対戦相手が試合中の場合は、試合が終わり次第提出すること。
- (2) オーダーシートには試合出場順を記入すること。
- (3) 試合のコールはしないので直接ベンチに入ること。ベンチは体育館奥側を若い番号のチームとする。
- (4) ベンチに入れるのはプログラムに登録された監督・選手8名に限る。
- (5) 選手紹介およびあいさつ後のミーティングはしない。(整列・あいさつ・1番2番がコートに入る)
- (6) ゲーム間・タイムアウト中のアドバイスはベンチにいる監督・選手からに限る。時間は1分以内を厳守すること。
- (7) 全ての試合を、原則として2台使用で行う。その時、ダブルスと同時に可能な4番の試合を行う。順番が後の試合で決着がついても、その前の試合は最後まで行うこと。
- (8) 前の試合が早く終わり、対戦が可能な場合はタイムテーブルを早めて試合を開始する。
- (9) 進行状況の遅れ等により試合コートの変更をすることがある。また、試合進行がタイムテーブルより大幅に遅れて試合に入る場合、1試合を4コートで行うことがある。その場合、ダブルスを最初に行う。
- (10) 競技領域およびベンチで携帯電話やタブレットを使用しての通話・通信を禁止する。
- (11) シューズの裏を拭くための雑巾などはベンチ付近に置く。床には直接置かず、よく絞ってからビニール袋などを敷いた上に置くこと。ゲーム間、タイムアウト中のみ使用できる。
- (12) 無作為にラケット検査を行うことがある。